

T

退院後も

T

つなぎます

A

あなたの

K

こころとからだ

**10月15日号
地域連携室発行**

暑さも和らぎ過ごしやすい季節となってきました。
皆さん、体調管理は如何でしょうか…？

ところでこのT・TAK新聞も発行3年目を迎えガンバって作
っていますが楽しみにしていただいていますか？

そこで今回はT(ティ)TAK(タック)ってなあ〜にと題して、
地域医療連携室(T・TAK事務局)山本義文さんにインタビューしてきました。



T・TAKってなあ〜に？

ティ タ ッ ク

地域医療連携室(T・TAK事務局)

山本 義文さん

Q: こんにちは。お忙しいところすみません！

A: いいですよ！貧乏暇なしですから！

Q: まず、T・TAKは何時発足したのですか？

A: 私も健康保険組合から病院に転籍して3年目なのですが、T・TAKも平成17年に坂口 一彦 元 内科部長(現 神戸大学附属病院病棟長)を发起人として立ち上げられました。

その後、平成18年からは小倉先生がリーダーとして引き継がれ、平成19年にはメンバーも募り新しいT・TAKとして活動しています。

退院後もつなぎますあなたのこころとからだ！を目標に活動し、退院された患者様が自宅・或は施設で、急変時に困らないよう連携をとるシステムを創りました。

Q: 具体的な活動は？

A: 高齢者が多くなる現代社会において、家庭でも介護が出来るように情報発信基地として、介護教室を開講し、自宅・施設での対応・介護保険の手続き、介護方法・介護食の作り方まで、多彩なスタッフと共に勉強しています。押し付けではなく参加型の教室であり、介護される人・介護する人の立場でアドバイスをし、気軽に相談できるように心掛けています。

また、病院と地域の開業医や施設との情報交換の機関紙発行や連携業務も実施しています。



(情報発信基地の活動である介護教室の様子)です。



Q: 今後の抱負は？

A: 播磨病院で治療されている患者さんやご家族、また近隣住民のお役に立てるように、平成19年度は新規メンバーを加え、従来の介護教室だけでなく、社会問題である高齢者を取り巻く環境にも目を向けていきたいと考えています。老健施設を持たない当院では、地域開業医先生をはじめ介護施設との連携ツールの作成など、新しい連携方法も考えながら退院後の相談(介護保険の手続き)や施設の紹介などを進めていきたいと思っています。

また自宅での介護が可能な患者さんに、自宅で生活できるよう訪問看護ステーションとの連携も強化し、在宅介護も進めていきたいと考えています。

また当院で作成した近隣地域(西播磨)を中心とした介護マップも、随時更新し患者さんや家族のニーズに対応できるように心掛けたいと思います。

地域における医療連携を尚一層充実させる為、開業医の先生方、医療スタッフとの定期的な情報交換の場も開催し、相生市はもとより地域住民の方が、退院後も安心して通院や生活出来るようにしていきたいです。

最後に介護教室に参加されている患者さんや家族のお役に立てるように、T・TAKのスタッフも小倉先生を中心に教室の講師などで頑張っていきます。私も陰ながら事務局として黒子精神で皆さんを支えていきたいと思っています。多くの参加者や患者さんが播磨病院に来てくださるよう努力してまいりますので、これからもT・TAKをよろしく願います。

山本さんどうもありがとうございました。
益々のT・TAKのご活躍を期待しています。

さて、次回のT・TAK新聞は どんなお話が聞けるでしょうか？・・・

お・た・の・し・み・に！！

T・TAK新聞のバックナンバーは、播磨病院のホームページ <http://www.harima-hp.jp/main.htm> からご覧になれます。

by: N . M